

米派米農業労務者とは……

農業労務者を米国に派遣する事業は、事業開始以来五年になり、本県関係では百六十六名の青年諸君を送出し、さらに昭和三十五年度の派遣者五十名の諸君が待機している。

この事業は年をおうて発展し、県下の農村青年、特に二、三男の皆さんの深い関心をあつめ、希望者の問合せが相ついでいるので、この機会に事業のあらましについて紹介することにした。

この事業は、何を目ざしているのか

わが国の農村では、解決しなければならぬ多くの困難な問題をかかえている。なかでも農村の潜在的失業群とも

昭和三十一年に渡米した本県出身の農業労務者二十五名は、リ「ダ」の米崎勝さん(熊本市出身)を中心に、三力年の任務を完了して、さる二月全国百名名の帰国者とともに、大阪商船あるせんち丸で横浜港に降り立った。

三年間の労務に耐え抜いて、心身ともに見違えるばかりに成長した姿は、埠頭に出迎えた留守家族の方々の感傷を吹き飛ばし目を見はらせた。

第一次派米者は、米国における仕事の都合で四月に帰国した数名を最後に、全員帰郷し、それぞれ農村の中堅として、力強い活動を始めている。

いふべき、二、三男の将来をどうするか、又、現在自営している青年の場合、経営の充実発展のための資金をどうしてつくるかということは、何れも極めて深刻な問題。

そこで考えられたのが、この農村青年を米国に「短期の労務者」として送り出す農業労務者米国派遣事業である。

戦後、米国では農業が急速に企業化され、且つ機械化され、経営面積も非常に拡大され、そのため、多数の農業労務者を雇わなければならないとなり、その労働力が国内だけでは不足するので、毎年多数の外国労務者を雇い入れているというのが現状。

隣接のメキシコの労務者を中心に、カリフォルニア州だけでも四十数万人といわれている。

そこで我が国ではこの実情に着目し、昭和三十一年にはじめて日本青年を



＜300年の歴史をもつ二つの用水路はいつも水のキレイなことがない……＞

そうという狙いだが、この面積のうち半分は現在の水田、あと半分の三百ヘクタールは、低収入のトモロコシ畑などを、ワリの良い水田に転換させようというもので、その結果、米換算八千石以上の増収が期待できるというから、この事業の農家経営に及ぼす効果は大へんなもの。

トモロコシ畑の収入は、十ヘクタール三俵として僅かに二千五百円程度。陸稲だと四俵程度でしかも連作ができない。こんな畑三〇〇ヘクタールが、土地改良後は一躍にして米八俵以上、金額にして三万円以上もあがる水田と化すのであるから、地元の人々の意気込みも違ってくる。

又、この地方は褐牛の飼育が盛んである。そこで青年達は、増えた水田の「アト作」に飼料作物をつくつて、褐牛の飼

育をもつと盛にしようというわけである。

とにかく、この土地改良事業は、久米野村にとつては実に効果的な、整形手術、といえるわけである。

挙る地元の熱意

ところで、この工事の総事業費一億七千百万円の負担区分は、国四・二割、融資四・七割、受益者負担が一・一割となつているが、地元での一番の問題点は、何と云つてもこの融資の償還と受益者負担の問題。

この二つを合わせると、十ヘクタール平均負担額は年間約千五百円。年間の額だとは云つても、一ヘクタールでは一万五千円にもなる。地元の人々に云わせるとこれが頭痛のタネ。「土地改良事業の効果の大きいことはよくわかつてはいる。だがその効果が現われるまでがづらい。」という人もいる。

だが、泣くとはかり云つても居られない。この土地改良区は、受益者五百四十戸、これから六十名の総代を選び出し、更に二十一名の理事と幹事がきめられてはいるが、ひんぱんに会合を開いて討議研究を続けてきた。

そうして、共通のナヤミである負担金の問題を解決するためには、老いも若きも、男も女も改良工事の人夫に出て働き、その労賃をこれに当てようではないかという事になった。特に農閑期にはこ

の事に全力を挙げて当らうというわけである。

又、米の収穫時は、十ヘクタール一俵ずつ農協貯金に廻して、これも負担金に当てようではないか……との話も現在進んでいる。

「この事業の効果が大きいに期待できる

お知らせ

事業所統計調査のお知らせ：☆

きたる六月一日を期して全国一斉に事業所統計調査が行われます。

この調査は事業所の国勢調査ともいふべき全産業にわたる(農林漁業を除く)包括的な調査で、わが国事業所の地域別、産業別、規模別の分布状況を明らかにするとともに、各種統計調査および行政施策の基礎資料を提供する重要な統計調査として、国勢調査に併せて指定統計第二号に指定されているものです。

調査は、甲調査と乙調査の二種類にわかれていて、甲調査は全事業所に対して六月一日に、乙調査は、そのうちサービス業だけに対して、六月十五日に実施されます。

その時期に、市町村から調査員がお伺いして、事業所の名称、事業所の所在地、事業の経営組織、従業員数、事業の内容等について、聞き取り調査をすることになっておりますから、皆さんの御協力をお願いします。

なお、調査の結果は、統計以外の目

だけに、私達もやりだしたら、人夫仕事にでも何でも出て、やりとげるつもりです。」と云う部落の人々の熱意は、取水口の工事の進捗とともに、いま火のように燃え上つている。

(広報 耕地二課)

今年度の新生活運動指定地区決まる……★

三十五年度の指定地区が次のとおり決まりました。

- 五名郡玉東村木葉▼宇土市浦小松▼鹿本郡田底村▼鮎託郡天明村▼阿蘇郡山西村小森▼天草郡有明町島子▼上益城郡甲佐町宮内▼八代郡千丁村大牟田▼球磨郡上村井上▼天草郡天草町下田北▼菊池市下西寺▼玉名市南関町関村▼球磨郡錦村平良▼阿蘇郡一の宮町西手▼熊本市川尻校区▼芦北郡津奈木村倉谷▼下益城郡松橋町豊川沖塘▼上益城郡矢部町入佐▼芦北郡芦北町藤瀬▼下益城郡城南町赤見高八▼ゴチ体は昨年度からの継続地区▼※昨年度指定された八地区はそのまゝ継続され、新たに十二地区が指定され今年度は計二十地区になったわけ。

(熊本県新生活運動協議会)

就労する地域

渡米した青年諸君は、米国太平洋岸のカリフォルニア州全域の農場に配属されるが、労働需要の関係から、南部地方が多く約八十％北部地方が二十％程度となつている。

生活は、施設の完備したキャンプで、共同生活を営みながら農場で働くのであるが、第一次の帰国者の本県関係の方々は、八カ所のキャンプに四～五人ずつに分れ、常に連絡をとり合い乍ら、日本全国から派遣された青年諸君の先頭に立つて働き、農場主からも深く信頼されていた。

どんな人が派遣されるか

日本全国から毎年派遣される人数は、千人を限度とし、滞米期間は三年以内となつている。

選ばれる人は、現在農業に従事している男子の青年であつて、将来も亦農業を経営することを目的としている者で、義務教育を終つたおおむね二十一才以上三十一才未満の者となつている。

特に大切なことは、現地の労働は大変単調な、しかも継続的な重労働であるから、それを十分にやつていける体力と精神力を持つていける人でなければならぬ。したがつて身体条件その他こまかい資格条件が決められているが、それらについては県庁の移民課、各県事務所農地課、又は国際農友会熊本支部に連絡すれば現地の仕事の内容や条件なども含めて詳しく説明することになつている。

(移民課)

＜熊本駅を出発する派米農業労務者＞

